

## 本市の交通事故の現状

## 1 全国、栃木県、宇都宮市の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移

交通事故発生件数及び死者数、負傷者数は、全国的に減少傾向にある。

本市においても、交通事故発生件数、死者数、負傷者数はいずれも減少傾向となっており、発生件数、負傷者数は令和元年に、死者数は平成29年に、昭和45年以降の最小値を記録している。

また、交通事故発生件数の減少率については、平成27年と令和元年の比較で、全国の▲29.0%、栃木県▲28.0%と比べ、宇都宮市▲27.3%とわずかに低い。

## 【全国】

項目		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
発生件数	件数	536,899	499,201	472,165	430,601	381,002
	増減	▲36,943	▲37,698	▲27,036	▲41,564	▲49,599
死者数	人数	4,117	3,904	3,694	3,532	3,215
	増減	4	▲213	▲210	▲162	▲317
負傷者数	人数	666,023	618,853	580,850	525,846	460,715
	増減	▲45,351	▲47,170	▲38,003	▲55,004	▲65,131

## 【栃木県】

項目		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
発生件数	件数	6,327	5,484	4,865	4,764	4,553
	増減	▲86	▲843	▲619	▲101	▲211
死者数	人数	98	76	95	89	82
	増減	▲4	▲18	19	▲6	▲7
負傷者数	人数	7,873	6,882	6,061	5,956	5,621
	増減	▲154	▲991	▲821	▲105	▲335

## 【宇都宮市】

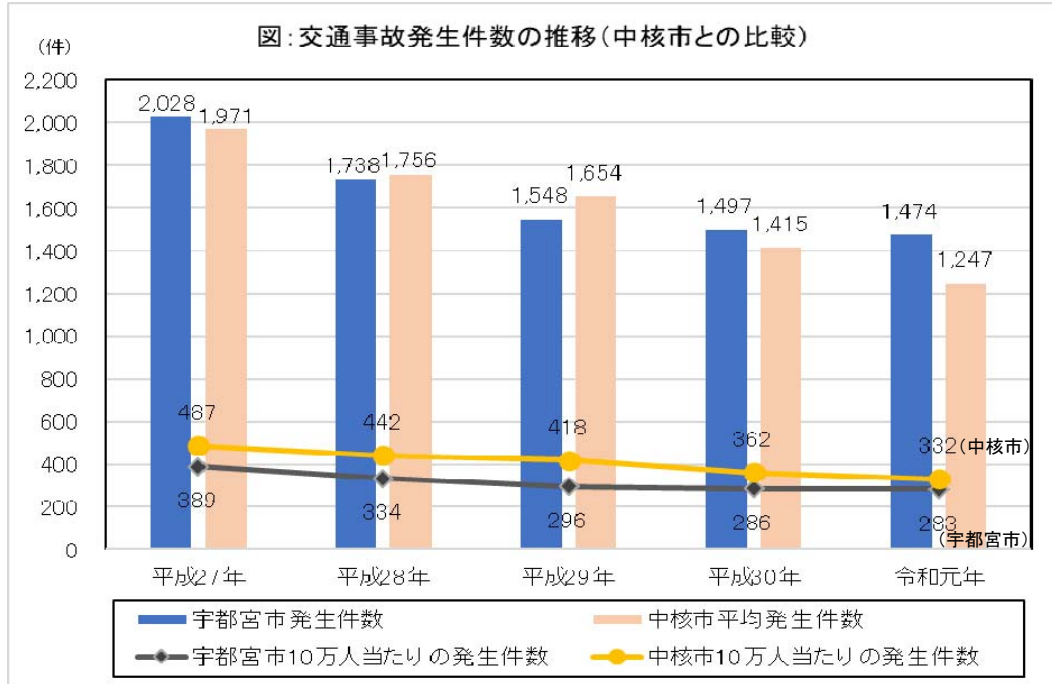
項目		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
発生件数	件数	2,028	1,738	1,548	1,497	1,474
	増減	62	▲290	▲190	▲51	▲23
死者数	人数	14	10	8	12	11
	増減	▲3	▲4	▲2	4	▲1
負傷者数	人数	2,467	2,125	1,857	1,828	1,796
	増減	51	▲342	▲268	▲29	▲32

(資料：栃木県警察本部提供データ)

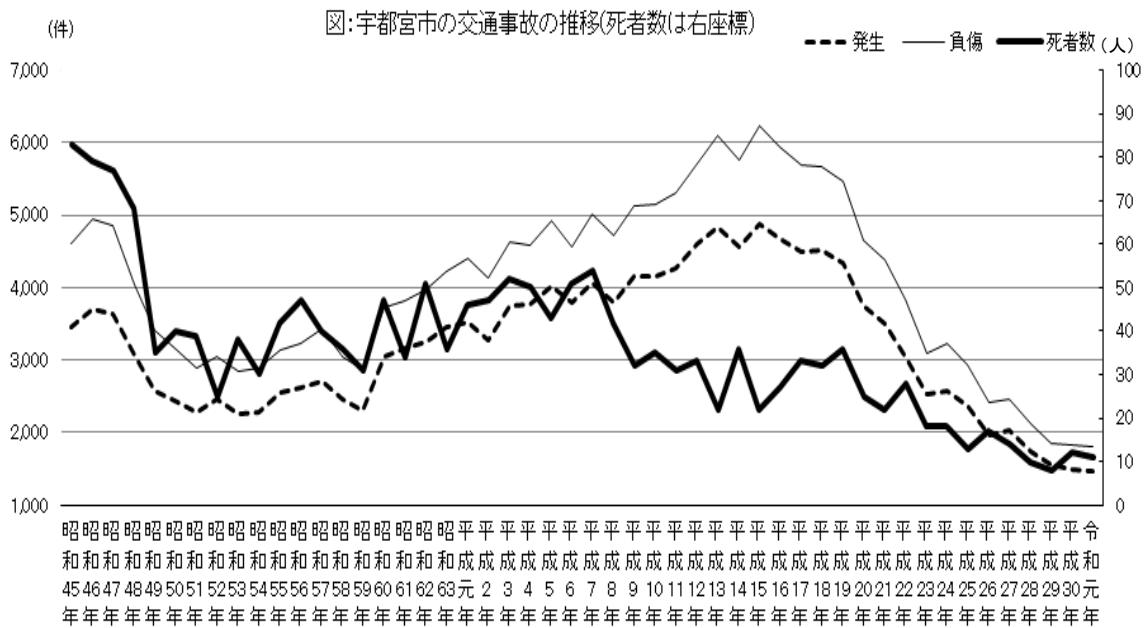
## 2 中核市との比較

### 【発生件数】

令和元年において、本市の交通事故発生件数は中核市平均を上回っているが、10万人当たりの発生件数は平均を下回っている。



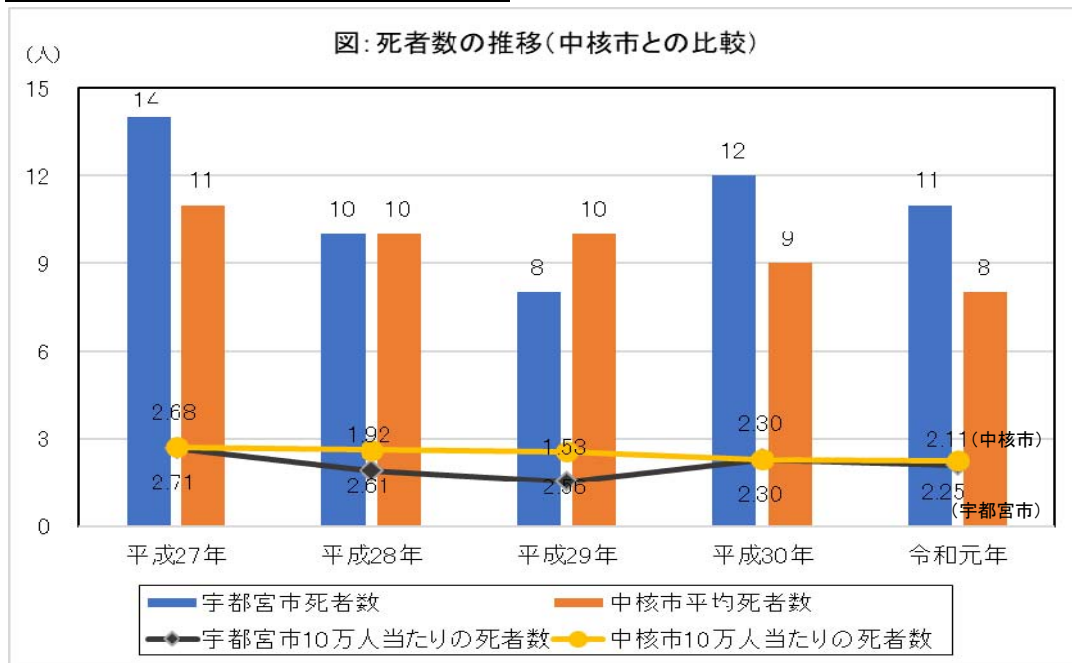
（資料：栃木県警察本部提供データ）



（資料：栃木県警察本部提供データ）

### 【死者数】

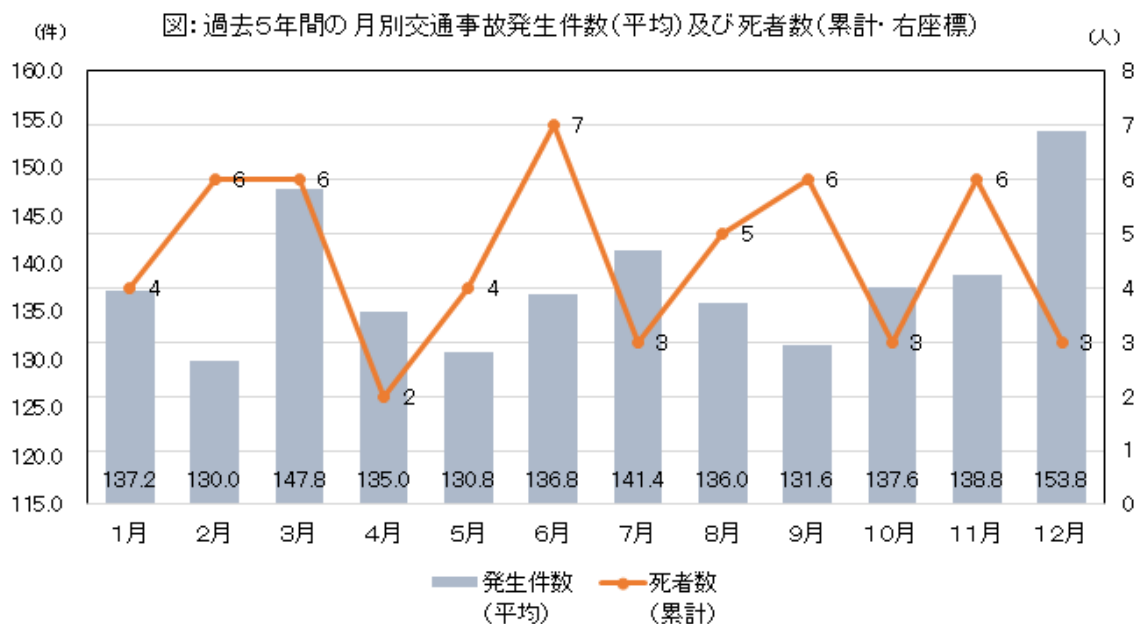
令和元年において、本市の交通事故死者数は中核市平均を上回っているが、10万人当たりの死者数は平均を下回っている。



(資料: 栃木県警察本部提供データ)

### 3 月別交通事故発生状況

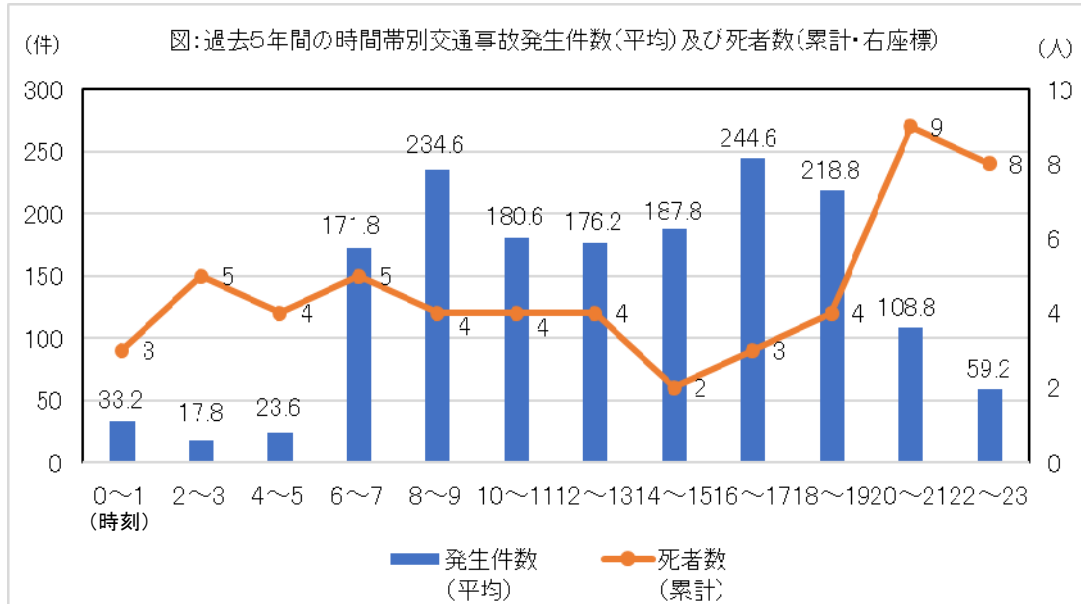
月別の交通事故発生状況は、過去5年間(平成27年~令和元年)では、発生件数(平均)は12月、3月が多く、死者数(累計)は6月が多い。



(資料: 栃木県警察本部提供データ)

#### 4 時間帯別交通事故発生状況

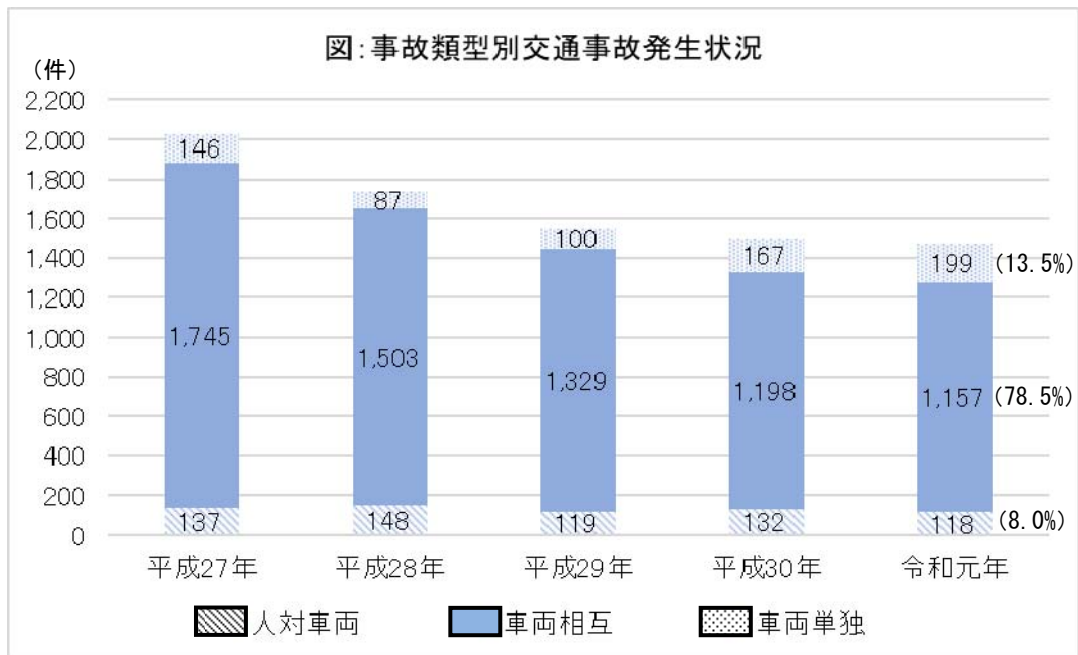
時間帯別の交通事故発生件数は、過去5年間（平成27年～令和元年）平均では朝夕の通勤・通学（8～9時）及び帰宅（16～19時）の時間帯に多い。死者数は夜間（20～23時）に多い状況となっている。



(資料：栃木県警察本部提供データ)

#### 5 事故類型別交通事故発生状況

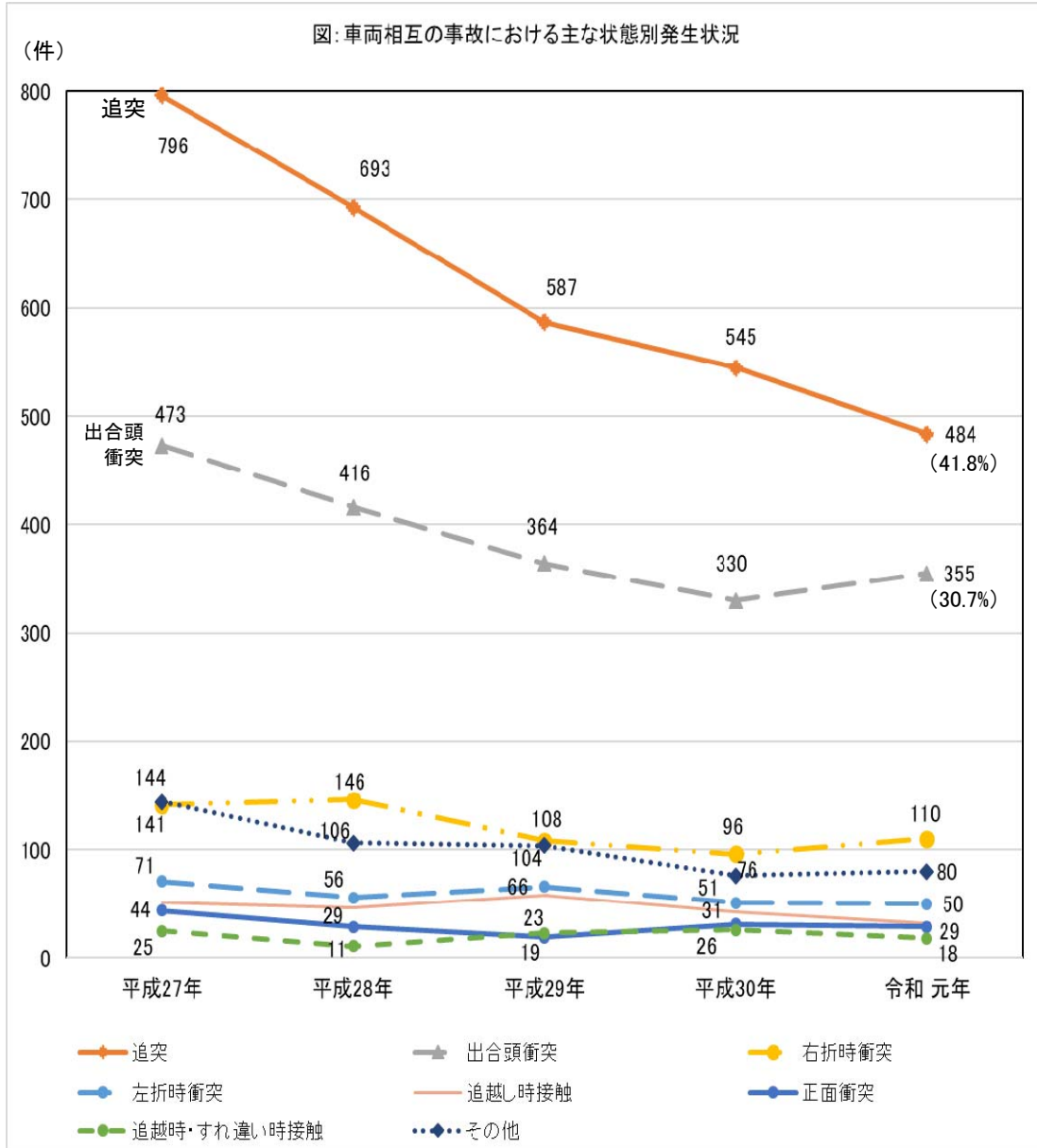
事故類型別交通事故発生件数は、車両相互が78.5%を占める。車両単独による事故が平成28年以降増加傾向となっている。



(資料：栃木県警察本部提供データ)

## 6 車両相互の事故における主な状態別発生状況の推移

車両相互の交通事故では、「追突」による事故が41.8%、「出合頭衝突」によるものが30.7%を占めているが、平成27年と比べると、「追突」は39.2%、「出合頭衝突」は24.9%減少している。



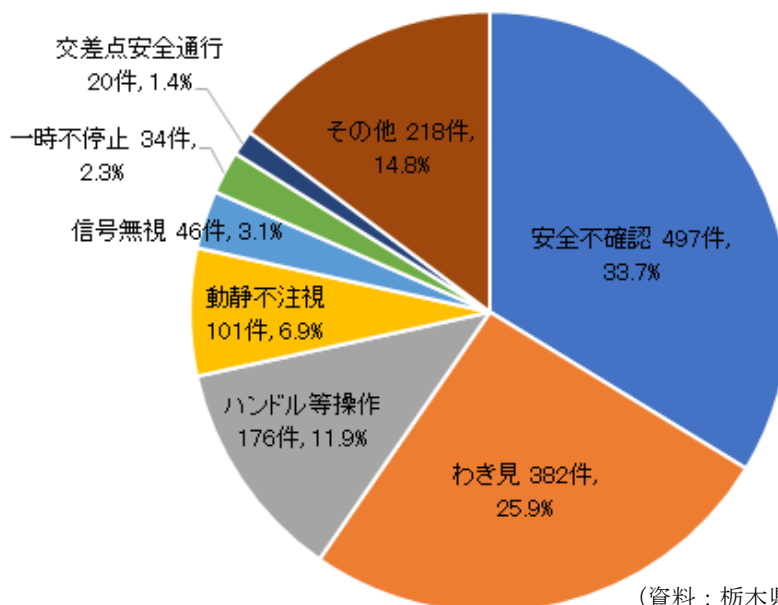
(資料: 栃木県警察本部提供データ)

## 7 第1当事者の原因別発生件数の割合（令和元年）

（第1当事者：交通事故に関係した者のうち、過失が最も多い者）

「安全不確認」「わき見」が事故全体の59.6%を占めている。

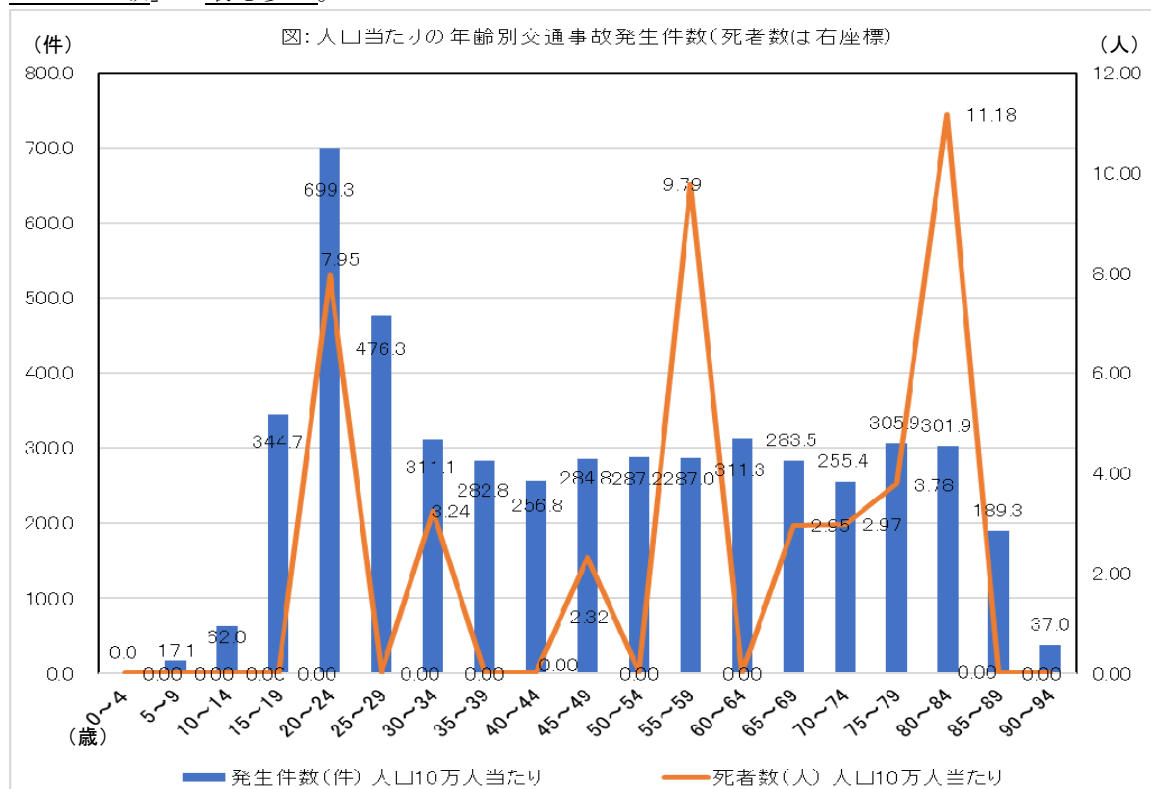
図：第1当事者の原因別発生件数の割合（令和元年）



（資料：栃木県警察本部提供データ）

## 8 人口当たりの年齢別交通事故発生件数（令和元年）

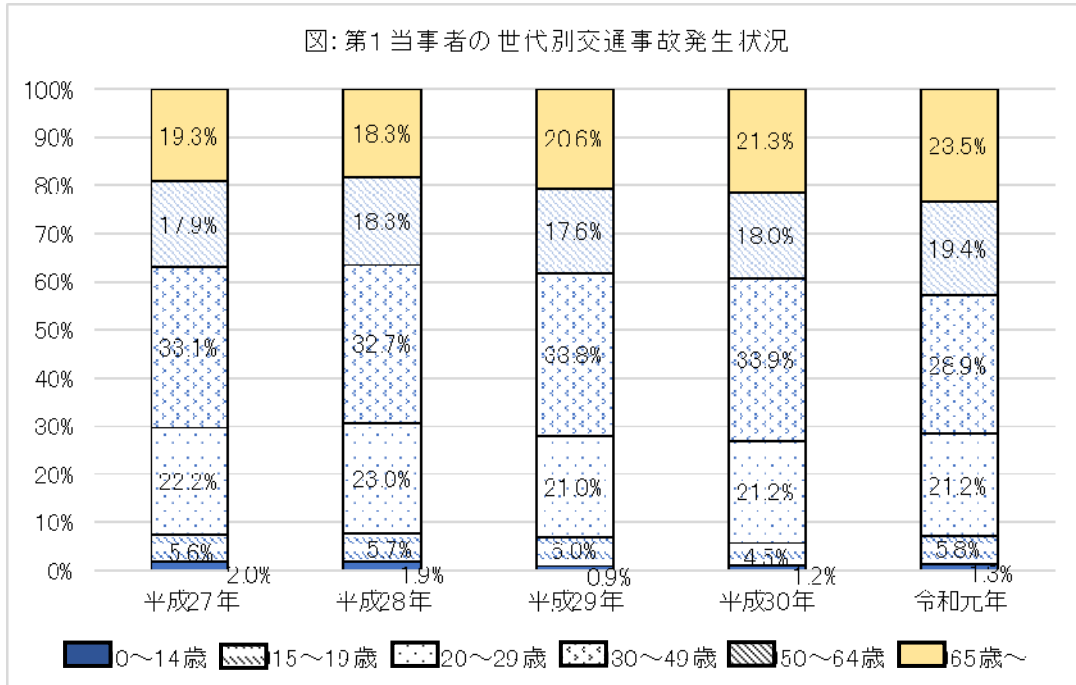
人口10万人当たりの第1当事者の年齢別発生件数は「20～24歳」、死者数は「80～84歳」が最も多い。



（資料：栃木県警察本部提供データ）

## 9 世代別交通事故発生状況

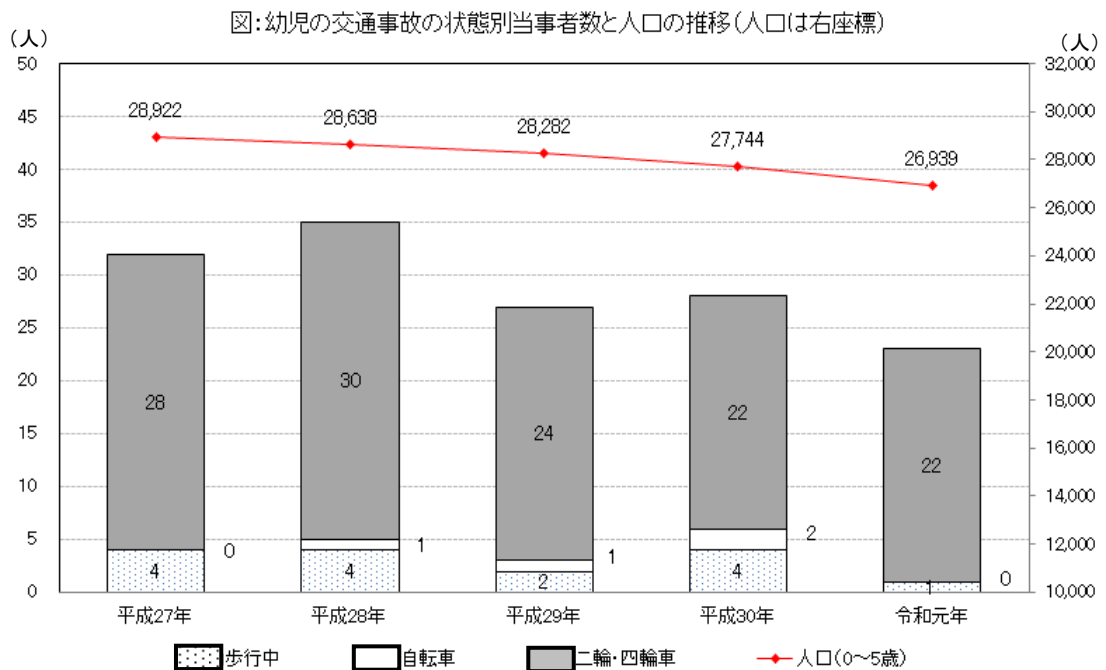
第1当事者の世代別の割合では、高齢者（65歳～）の占める割合が増加傾向となっているが、その他の世代については、ほぼ横ばいとなっている。



(資料：栃木県警察本部提供データ)

### (1) 幼児の交通事故

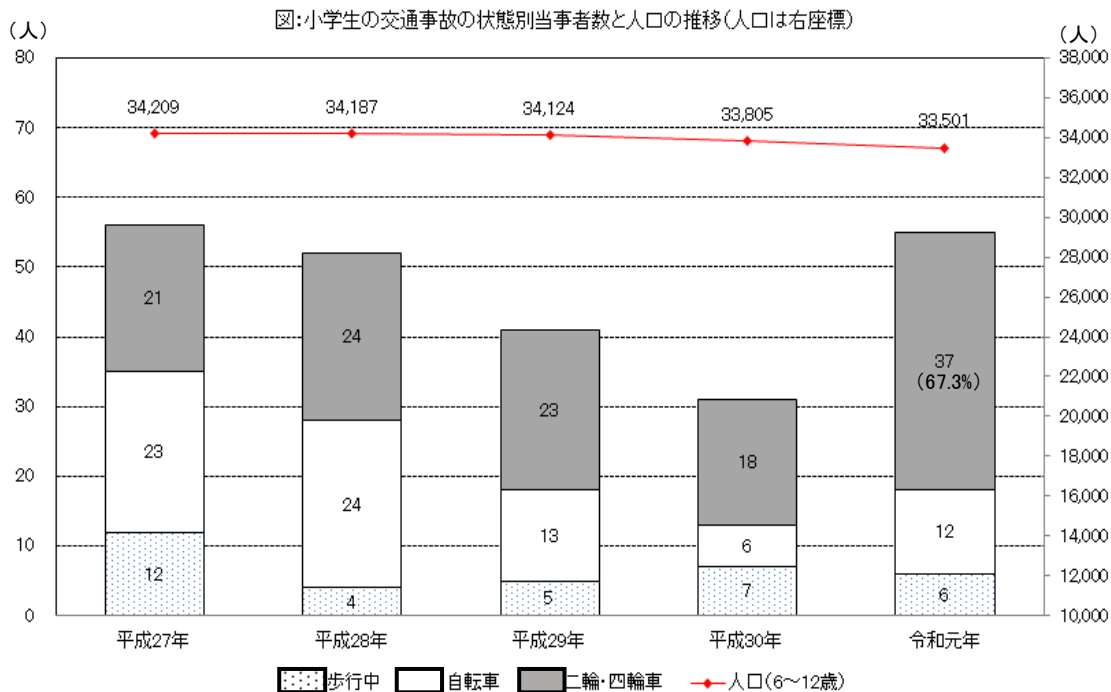
人口は緩やかに減少しており、当事者数は減少傾向となっている。状態別では二輪・四輪車乗車中が95.7%を占めている。



(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝栃木県警察本部提供データ)

## (2) 小学生の交通事故

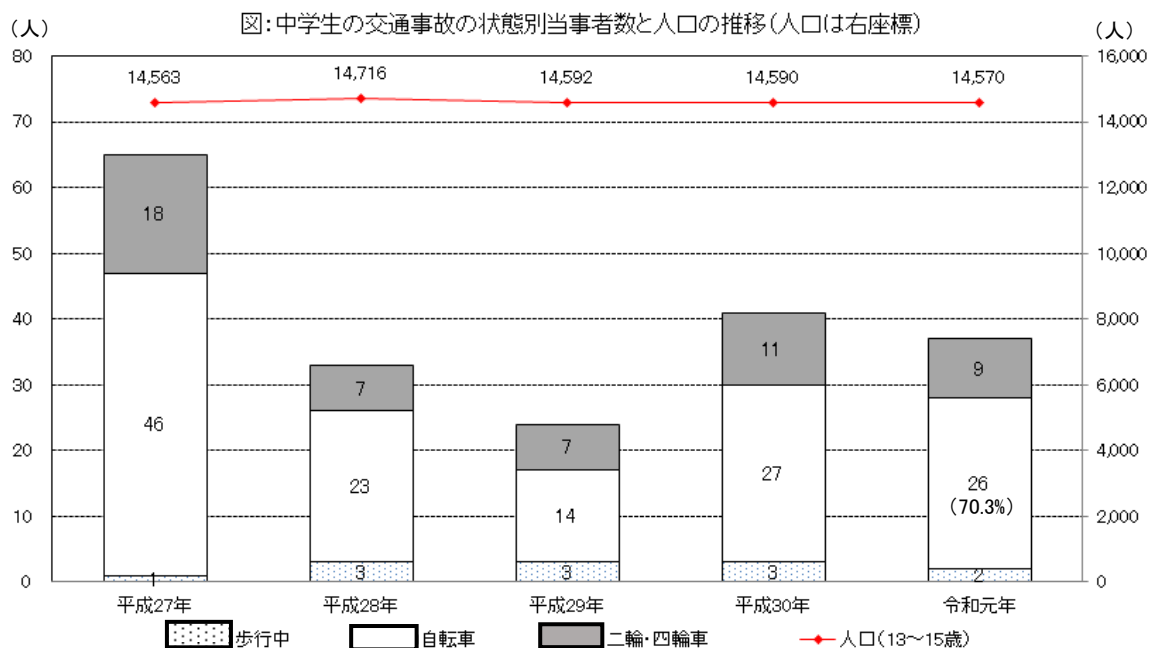
人口は緩やかに減少しており、当事者数は平成30年まで減少していたが、令和元年は増加した。状態別では二輪・四輪車乗車中が67.3%を占めている。



(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝栃木県警察本部提供データ)

## (3) 中学生の交通事故

人口は横ばいの状態であるが、当事者数は平成27年の約半分にまで減少している。状態別では自転車乗車中が70.3%を占めている。

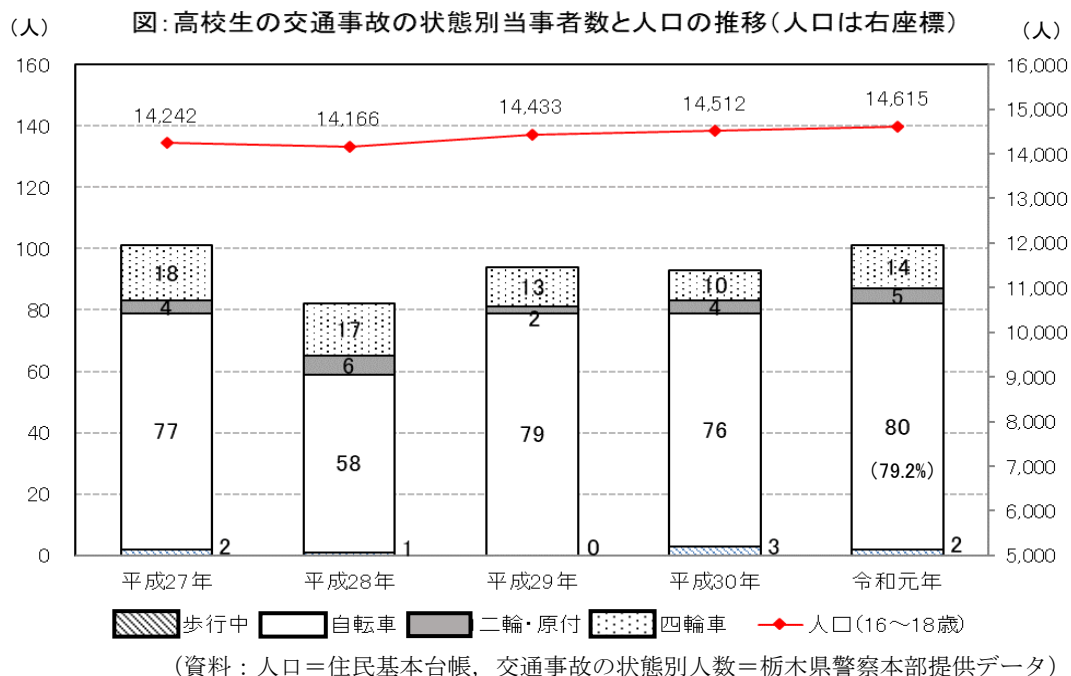


(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝栃木県警察本部提供データ)



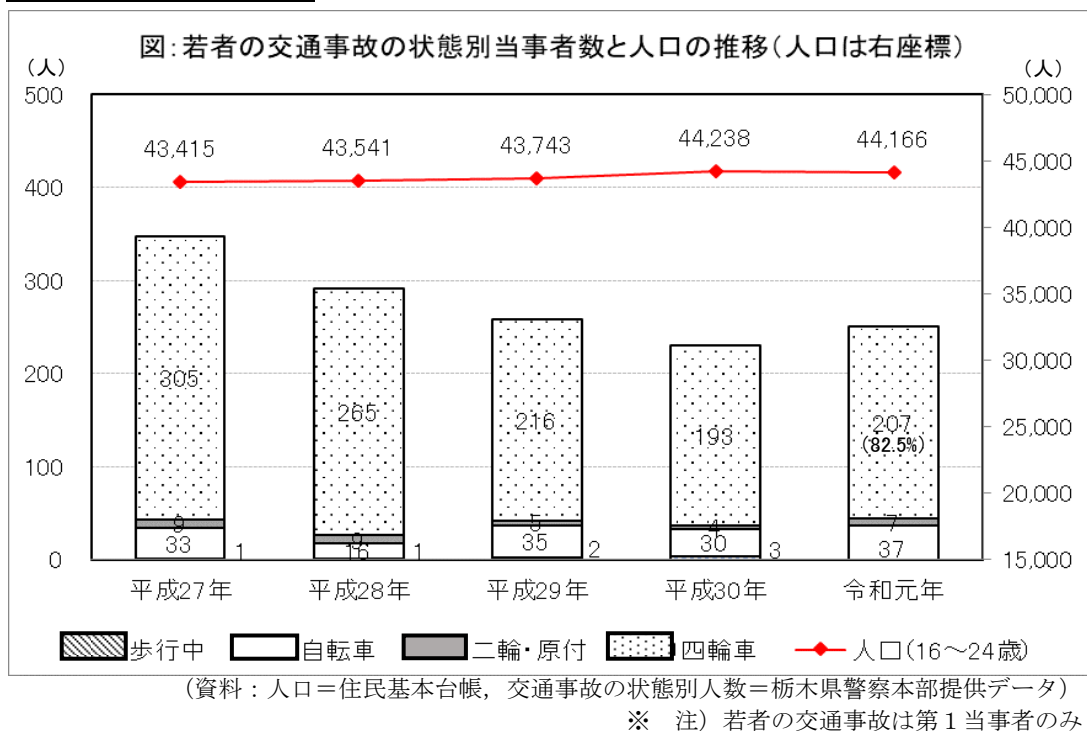
#### (4) 高校生の交通事故

人口は緩やかに増加しているが、当事者数は横ばい状態である。状態別では自転車乗車中が79.2%を占めている。



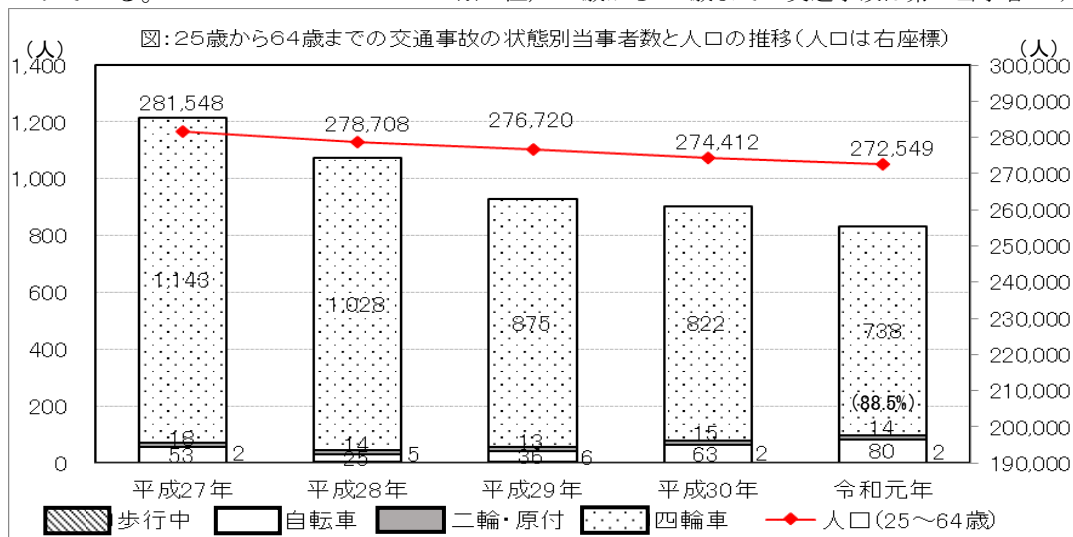
#### (5) 若者(16~24歳)の交通事故

人口は緩やかに増加しているが、当事者数は減少傾向となっている。状態別では四輪車乗車中が82.5%を占めている。



## (6) 25歳から64歳までの交通事故

人口、当事者数ともに減少している。状態別では四輪車乗車中が88.5%を占めている。  
 ※ 注) 25歳から64歳までの交通事故は第1当事者のみ



(資料: 人口=住民基本台帳, 交通事故の状態別人数=栃木県警察本部提供データ)

## (7) 高齢者の交通事故

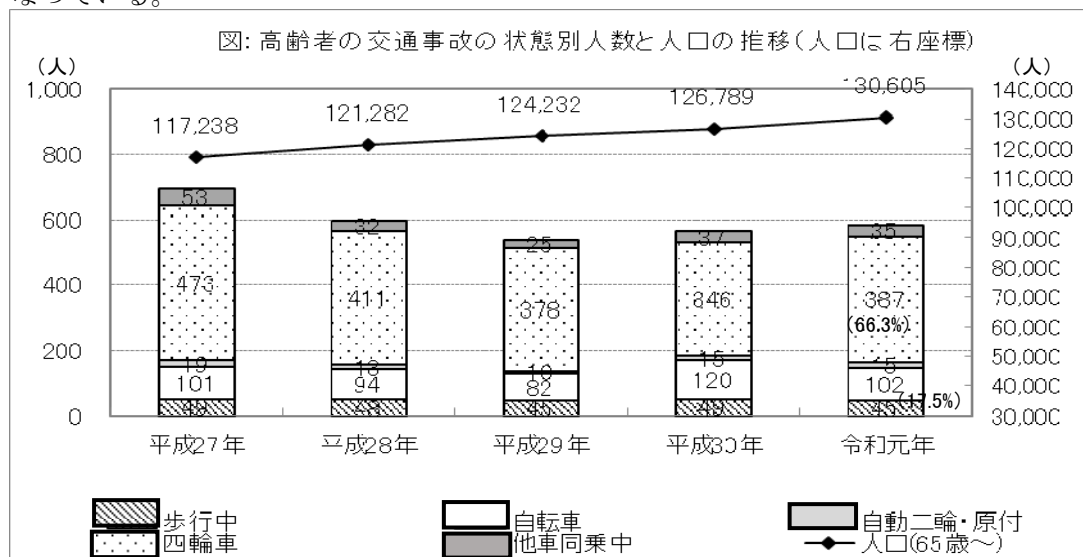
人口は増加しているが、当事者数は減少傾向にあり、状態別に見ると四輪車乗車中が66.3%、自転車乗車中が17.5%を占めている。

高齢者の交通事故の事故全体に占める割合は増加傾向となっている。

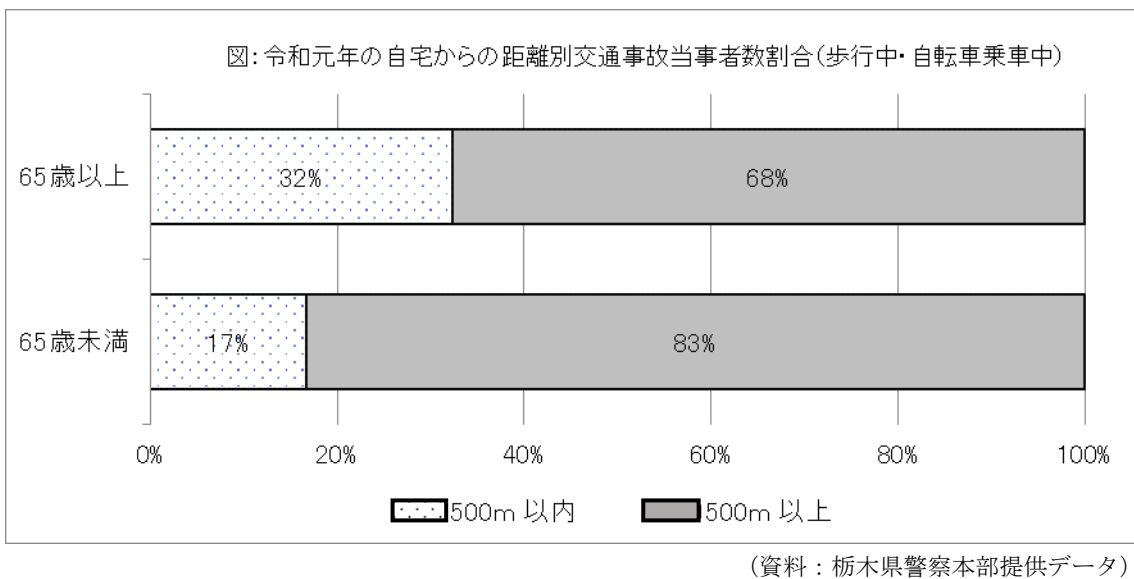
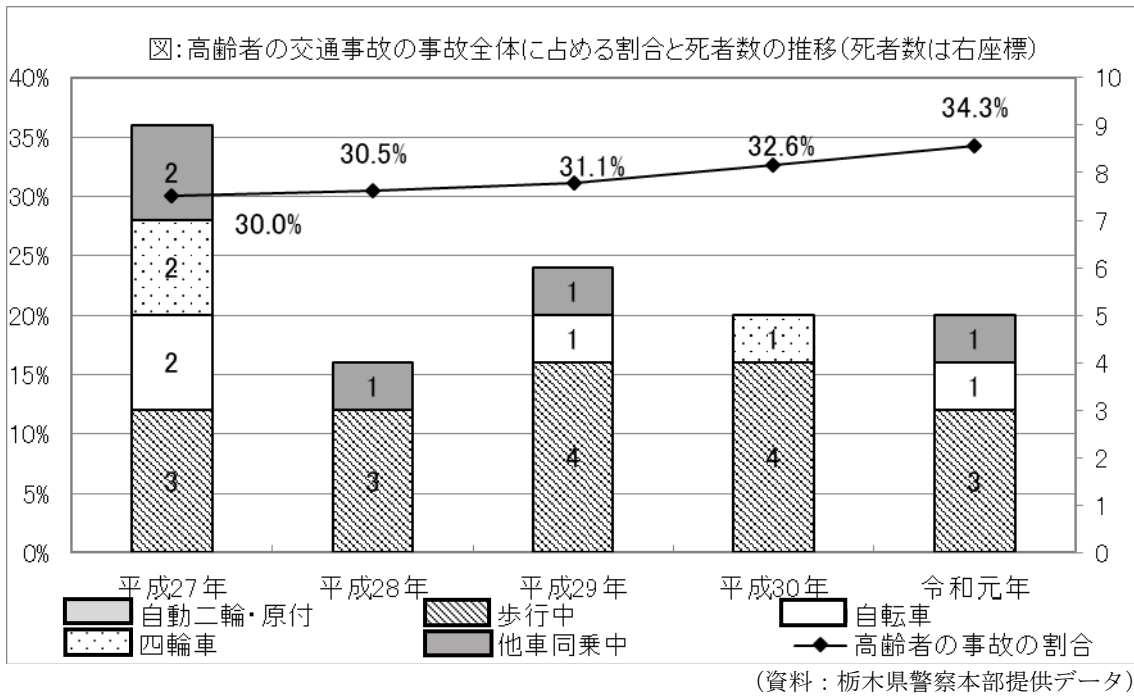
また、歩行中、自転車乗車中の事故では、他の年代に比べ自宅から500m以内で事故に遭う割合が高い。

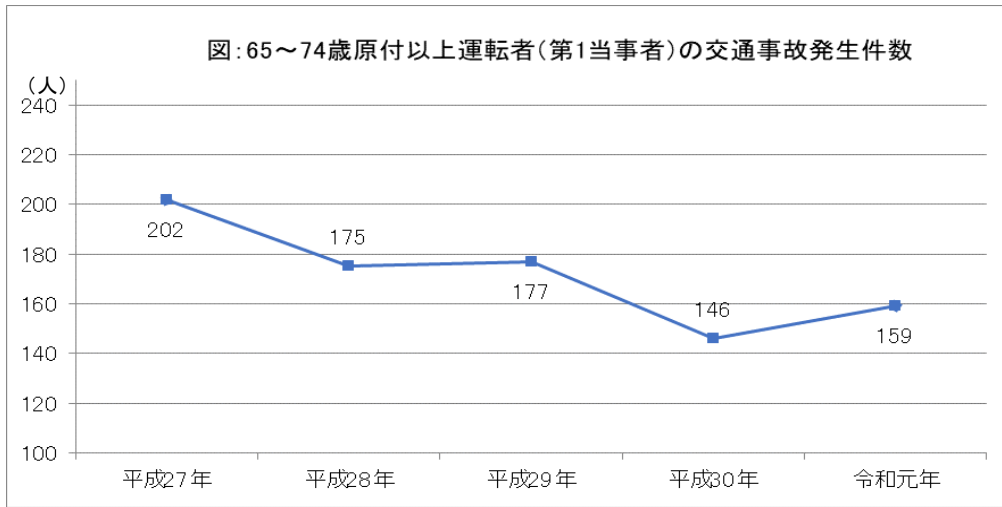
65~74歳の原付以上運転者(第1当事者)の交通事故発生件数は減少しているが、75歳以上は横ばいである。

運転免許申請取消(自主返納)件数は、75歳未満、75歳以上ともに増加傾向となっている。

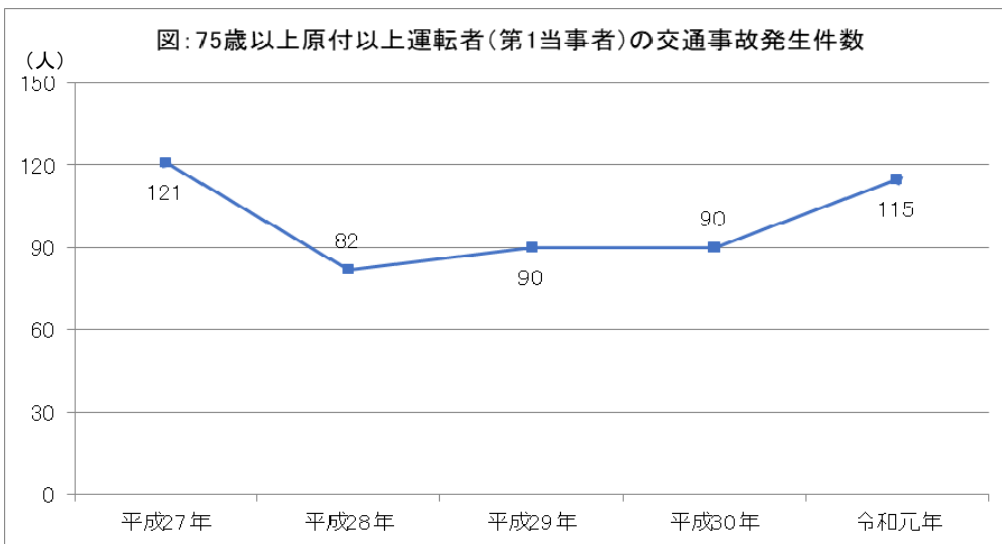


(資料: 人口=住民基本台帳, 交通事故の状態別人数=栃木県警察本部提供データ)

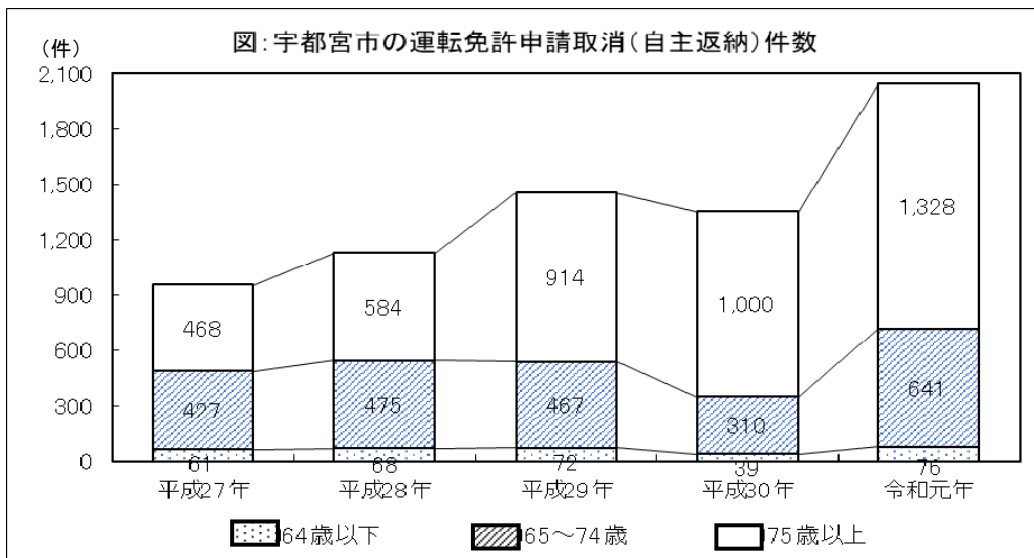




(資料: 栃木県警察本部提供データ)



(資料: 栃木県警察本部提供データ)



(資料: 栃木県警察本部提供データ)

## 10 歩行者の交通事故

歩行者の交通事故当事者数は減少傾向となっている。事故全体に占める割合は横ばいの傾向にある。事故原因別では、「とび出し」「横断歩道外横断」が多く、いずれも17.9%を占めている。

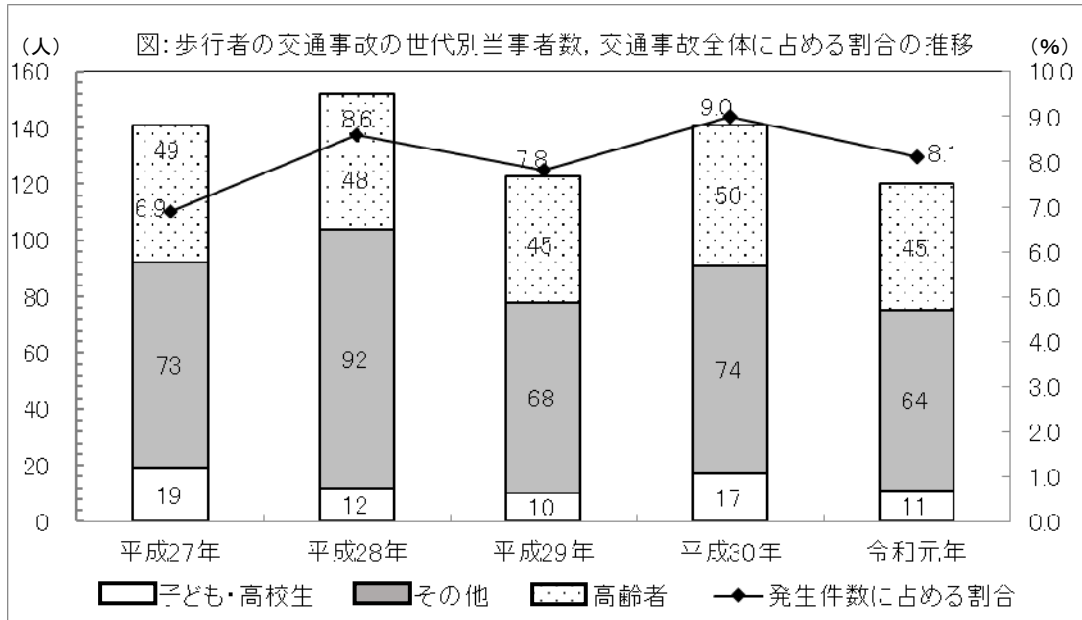
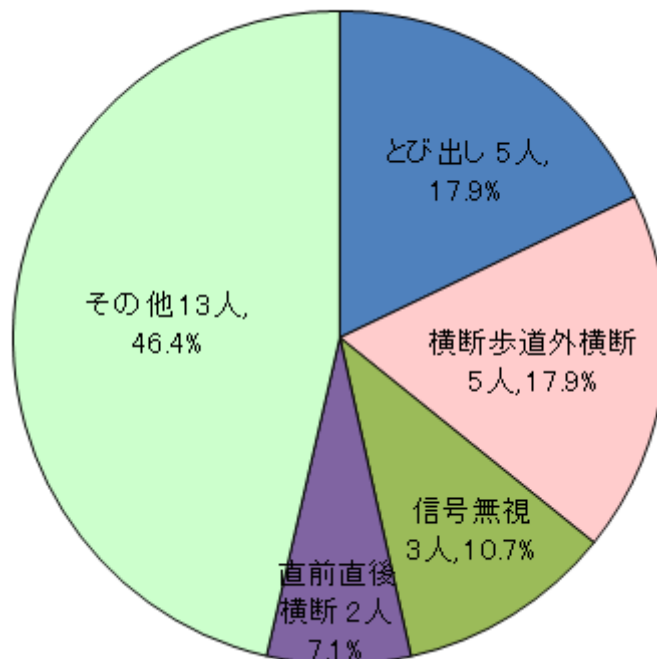


図: 歩行者の交通事故の原因別当事者数の割合(令和元年)



## 1.1 自転車の交通事故

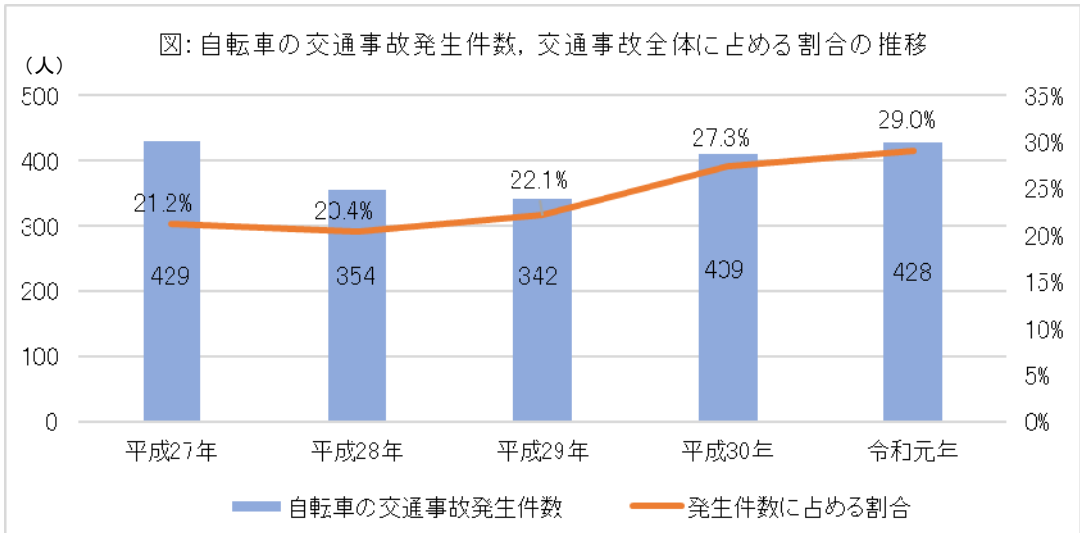
自転車の交通事故発生件数は横ばいの傾向にあるが、交通事故全体に占める割合は高まっている。

自転車の交通事故当事者数は、「子どもから高校生」と「高齢者」で50.5%を占めており、原因別では「ハンドル・ブレーキ操作不適」が最多の53.4%を占めている。

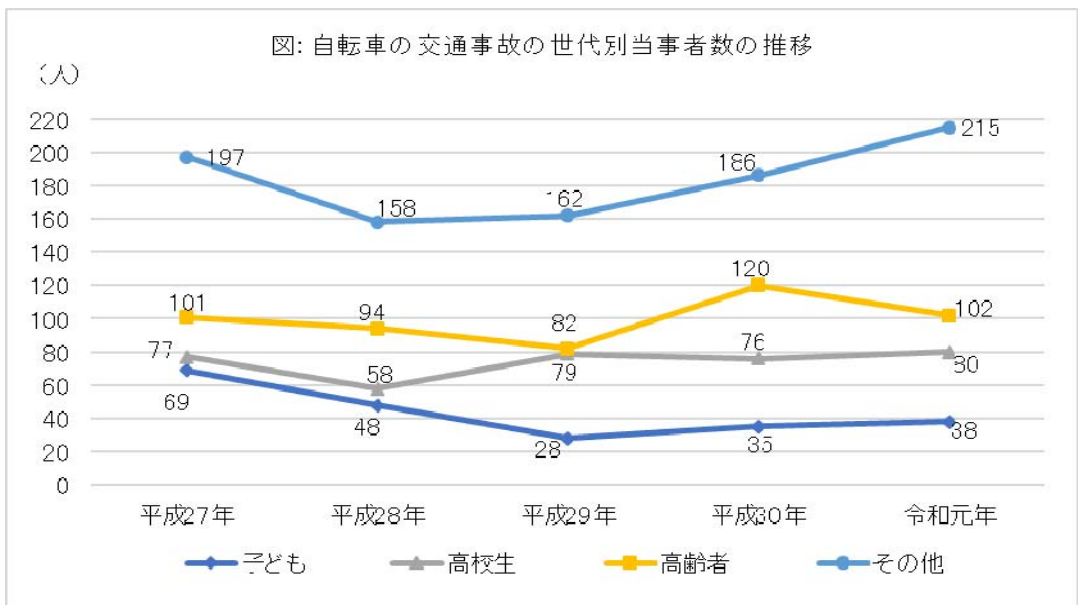
自転車が関係する車両相互の交通事故の類型別発生状況を見ると、90.4%は交差点等（出合頭、右左折時）で発生している。

世代別人口1万人当たりの自転車事故当事者数を比較すると、高校生が突出して多く、次いで中学生、高齢者となっている。

自転車事故における当事者の違反の有無については、違反ありが69.9%、なしが30.1%となっている。

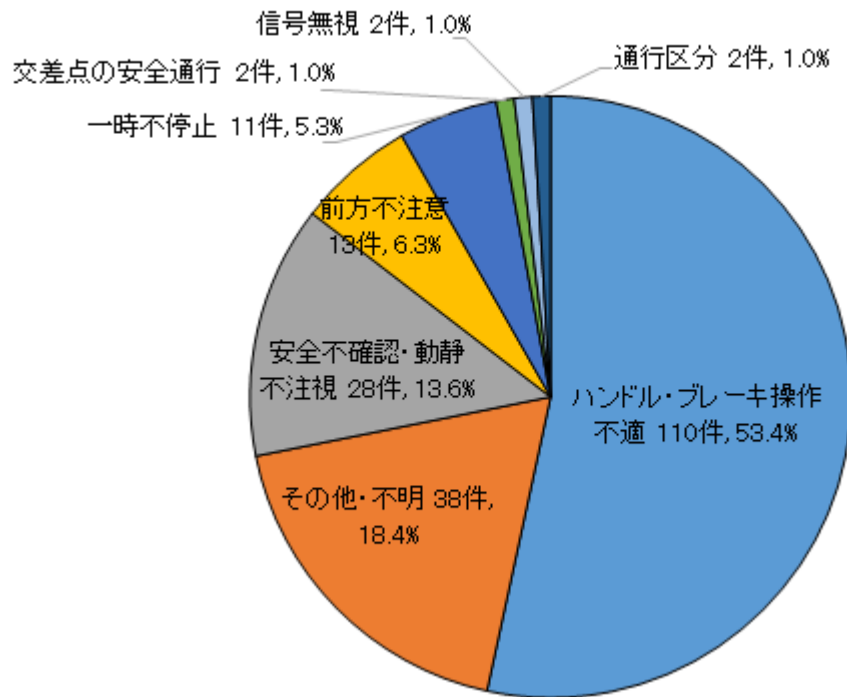


(資料: 栃木県警察本部提供データ)



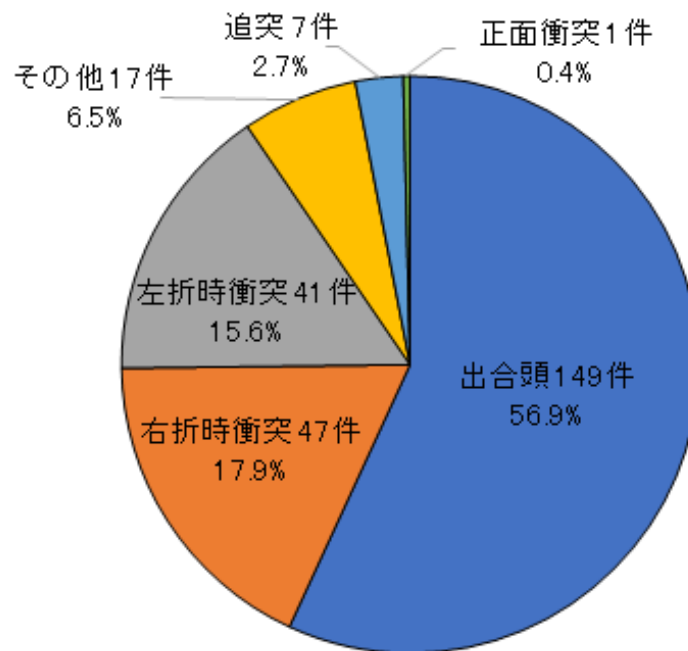
(資料: 栃木県警察本部提供データ)

図：自転車が第1当事者となった原因別発生件数の割合(令和元年)

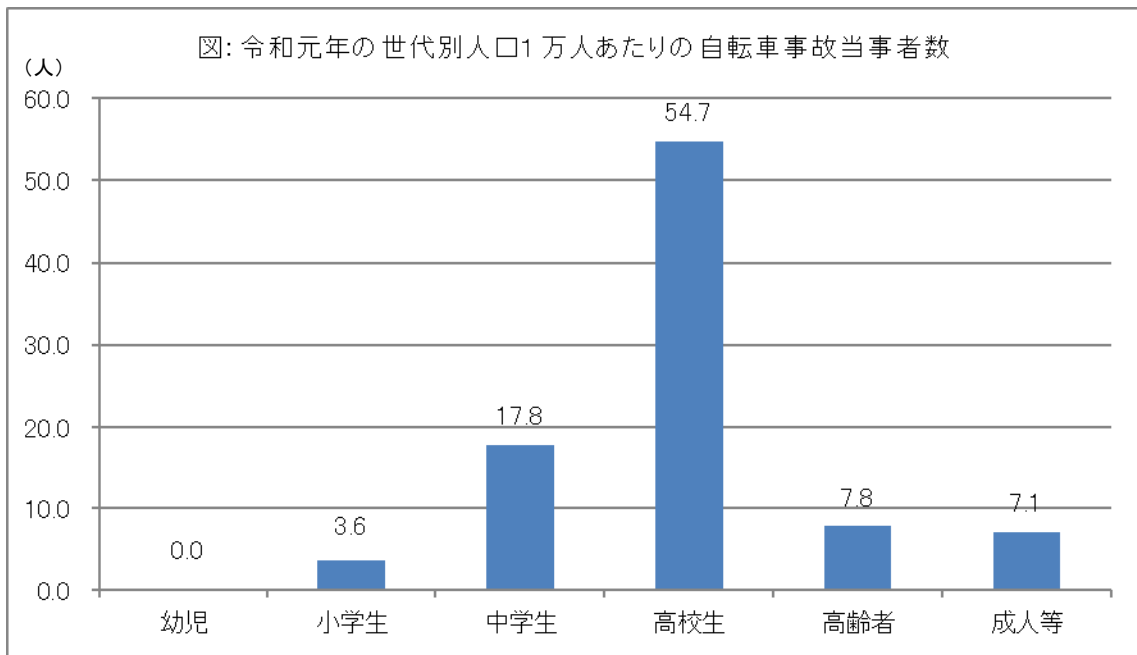


(資料：栃木県警察本部提供データ)

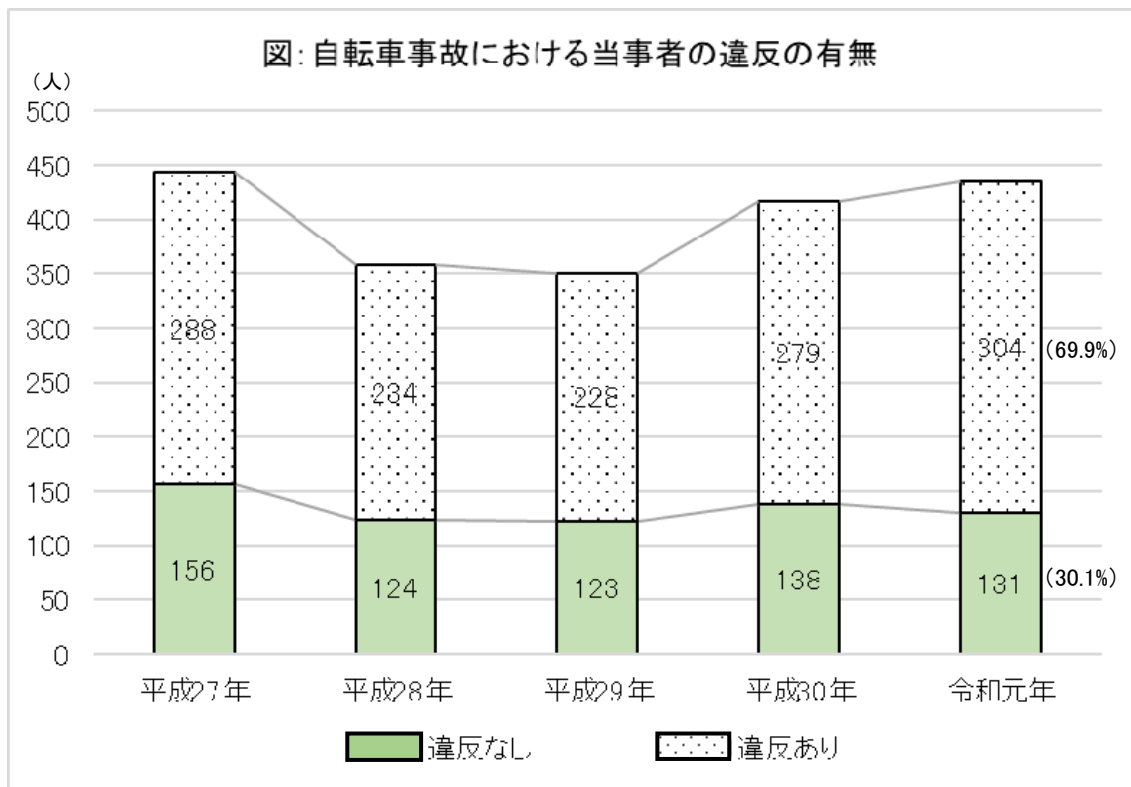
図：自転車が関係する車両相互の交通事故の類型別発生件数の割合(令和元年)



(資料：栃木県警察本部提供データ)



(資料: 人口=住民基本台帳, 自転車事故当事者数=栃木県警察本部提供データ)

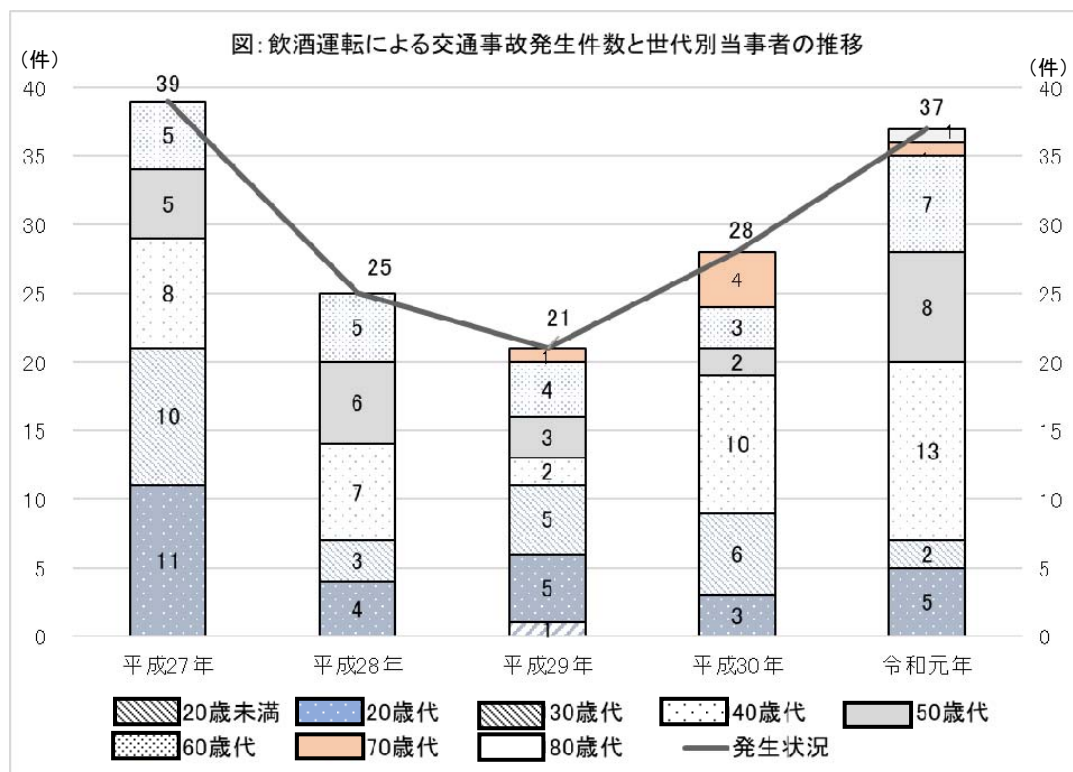


(資料: 栃木県警察本部提供データ)



## 1.2 飲酒運転による交通事故

飲酒運転による交通事故は、平成29年まで大きく減少したが、平成30年に再び増加に転じた。

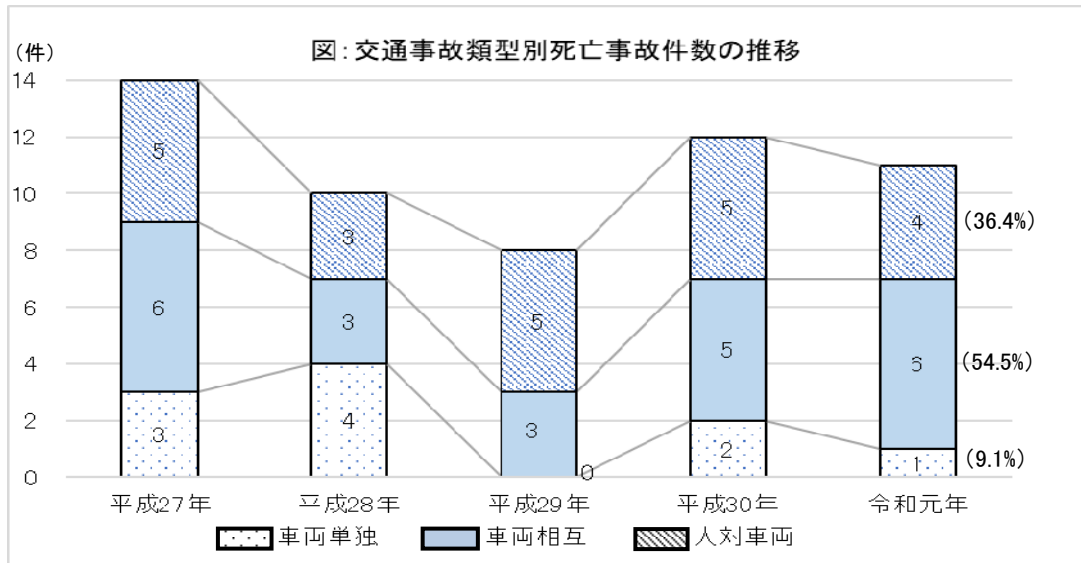


(資料：栃木県警察本部提供データ)

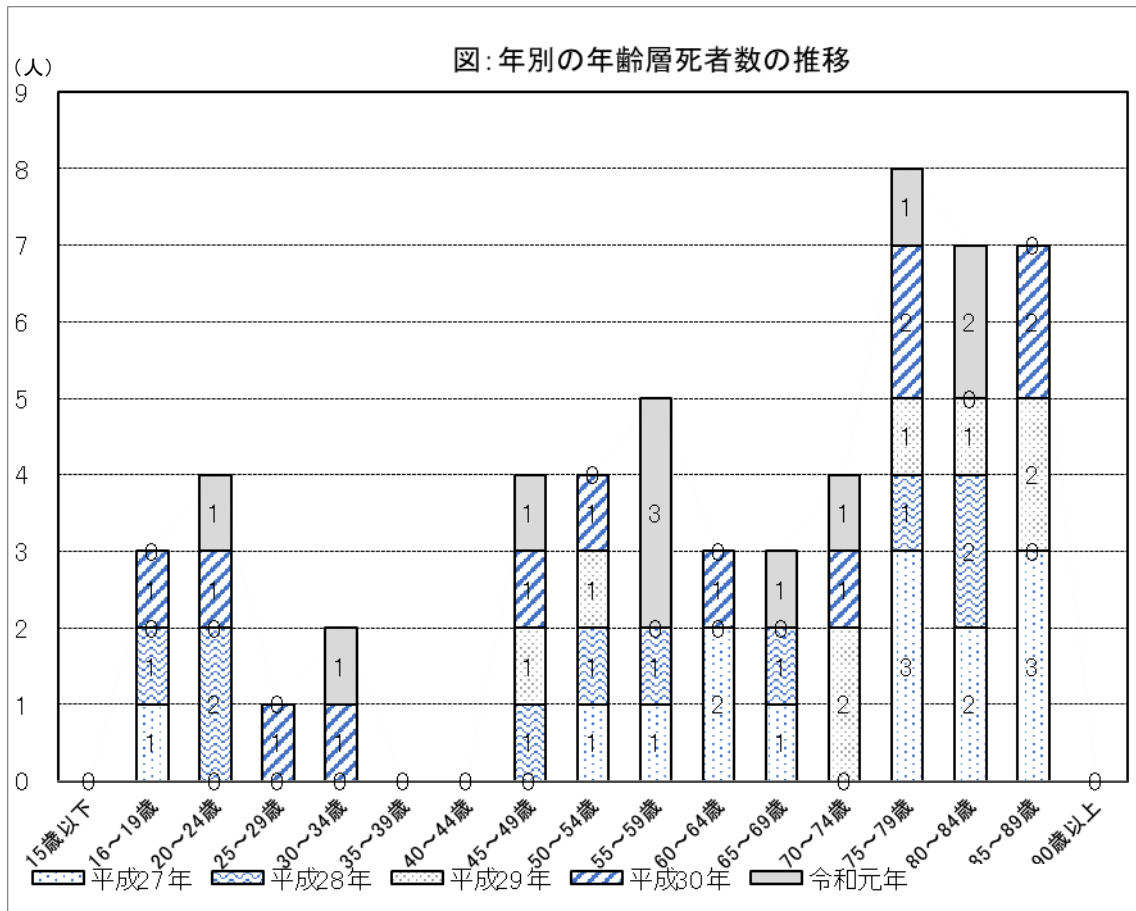
### 1.3 死亡事故

死亡事故の類型別発生件数では、「車両単独」が減少傾向にあり、「車両相互」は平成28年に減少したものの、再び増加に転じている。人対車両の事故では、「横断歩道付近・その他横断中」が最多で63.6%を占めており、車両相互の事故では交差点での「出合頭」が43.5%を占めている。

年齢層死者数では、高齢者が全体の52.7%を占めている。

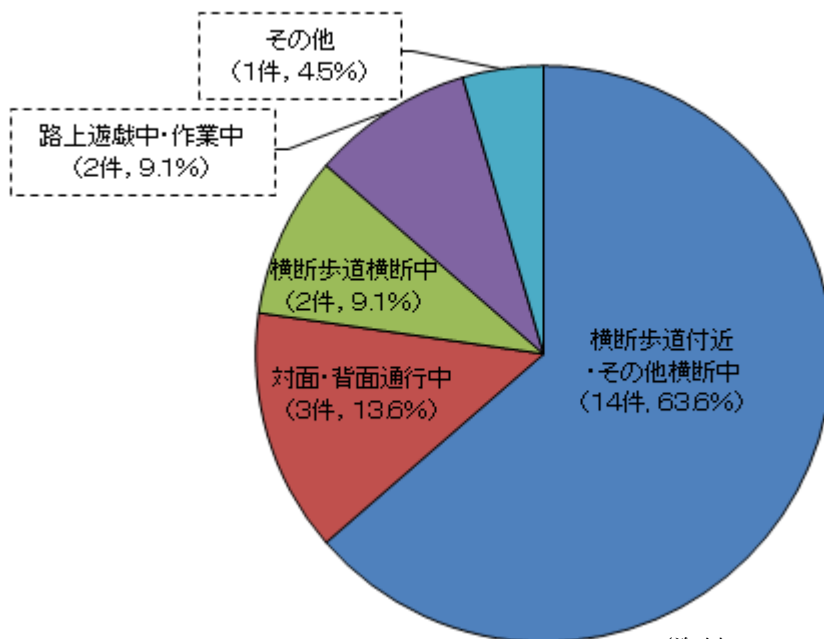


(資料：栃木県警察本部提供データ)



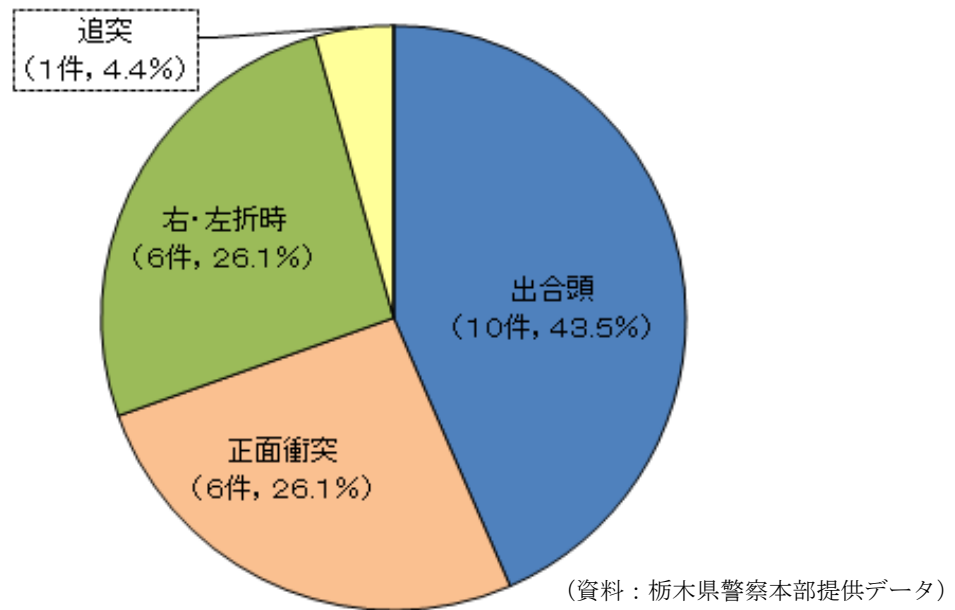
(資料：栃木県警察本部提供データ)

図：平成27年以降の人対車両の交通死亡事故の類型別割合



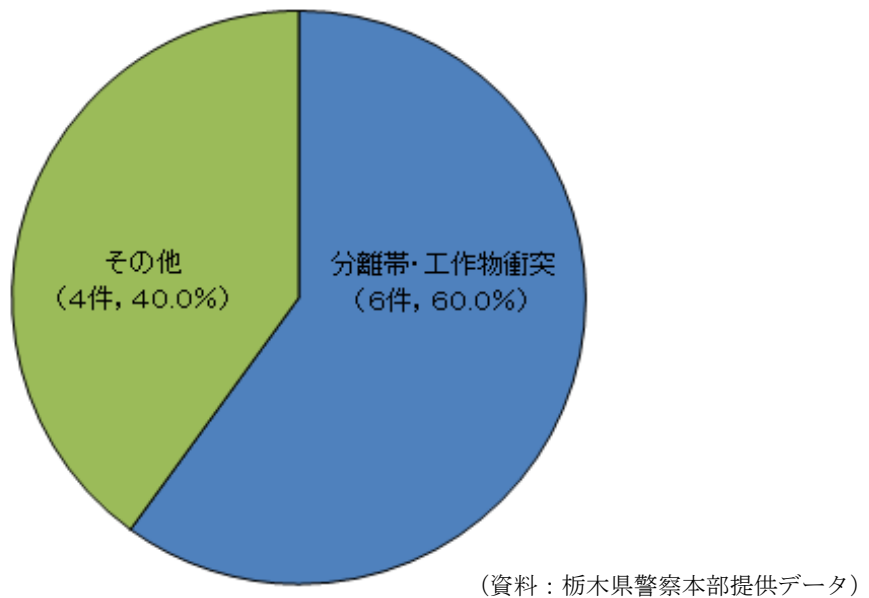
(資料：栃木県警察本部提供データ)

図：平成27年以降の車両相互の交通死亡事故の類型別割合



※ 直近5年間において、追越・追抜時及びその他の要因による交通死亡事故無し

図：平成27年以降の車両単独の交通死亡事故の類型別割合



※ 直近5年間において、路外逸脱・逸脱転落による交通死亡事故無し